

平成26年度 第3回新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 平成26年11月18日（火） 午後3時 ～ 5時

【場 所】 BIZ新宿（区立産業会館） 多目的ホール

【出席者】 委 員：植田、河藤、川名、松尾、下吹越、前田、志村、加藤、富田、酒井、北村各委員
事務局：加賀美地域文化部長、中川産業振興課長、黒澤産業振興係長、久野主任主事、
後藤産業創造プランナー

【欠席者】 益田、高橋委員

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

（1）専門部会「新宿らしい産業振興・新しい産業づくり」報告

配付資料に基づき、2回実施した専門部会「新宿らしい産業振興・新しい産業づくり」について事務局より報告した。

（2）意見交換

3 主な発言内容

- ・新宿区内の企業の活性化、元気な企業を増やし、新しい企業を増やしていく、地域の中で新しい価値を生み出していく、価値の連鎖を生み出していく、そうすると地域が豊かになっていく、そんな地域をつくっていくというところを目標にしながら考えていきたい。
- ・中小企業という視点だけではなく、創業支援も含めて考えると、創業者も新宿が目指す産業の枠を超えた「経済循環」「価値連鎖」「価値創造」の担い手になっていくのではないかな。
- ・やる気がある企業を増やすために、創業という点も非常に大事なポイントであり、いろいろな形で創業したい人たちと接点を持ち、創業が成功していくように取り組んでいかなければいけない。創業を考えている人たちも段階や幅があるので、そのことも含めてサポートできるような体制を考えていく必要がある。
- ・創業する人は産業分類で分けられる仕事だけではなく、また商店街にも福祉の視点が出てくるなど、今までとは違うことを今後考えなくてはいけないかもしれない。創業支援センターがそういう相談も受け付けられる機能も必要ではないかな。
- ・自助努力をしていこうとする企業と、現在どういう形で接点ができているのか。企業が訪れる窓口もたくさんあり、統一したものが必ずしもあるわけではない。企業に対して窓口をいかに広げていき、やる気のある企業を見つけ、そういう企業をいかにつくりあげていくのか、考えていかなければならないと思う。
- ・例えば支援のテーマとして、まちづくりで考えてみてはどうか。どういう方向性をもってまちづくりをしていくのか、そこにどうやって参加できるのか、産業界、企業、商店などと区が連携するなど、日本一の活性化したまちをつくりあげる方策を考えていったらいいのではないかな。
- ・支援のテーマは区で決めるものだけではなく、ボトムアップというか提案を受けて、テーマをより分ける

中間の場があってもいいと思う。どちらかしかないというのではなく、両輪で行ってみるのもいいのではないか。例えばまちづくりをテーマにした場合、商店街の状況も考えることになるので、区で決めるのか、ボトムアップして何かをつくり上げていくのかは議論したほうが良いと思う。

- 新しい産業が生まれてくることは、非常に時間がかかるのではないかなと思う。何かと何かの組み合わせ、例えば伝統産業とITの組み合わせなどを考えるのが現実的で、今ある産業振興のいろいろな支援メニューの中にそういったエッセンスを入れていくと、次世代の政策になるのではないかな。イノベーションの視点からすると、IT、コンピューター技術やソフトウェア、インターネットと、何かを組み合わせると新宿らしい何かができる、そういう視点で考えてはどうか。
- 世界的大企業が新宿に本社を構えてくれればいいが、そのような企業に育っていく企業や、この厳しい状況の中でも新しいことに取り組み、企業として維持、発展していくという企業が新宿にたくさん生まれてくるということがとても大事である。また従来の延長線上ではなく、いろいろなものを組み合わせて、市場で売れていくものにしていくように、その組み合わせをつくっていく場、プラットフォームやマッチングの場を設けていくのは非常に重要である。企業にプラスになり、企業が使いやすいものをどのようにつくっていくのか、組み合わせをどうやってつくっていくのか、やる気のある企業が自らチャンスをつくっていけるような環境をどうつくっていくのか、ということを考えていくべきではないかなと思う。
- プラットフォームという場は、何かあった時に、そこに行けば何らかの情報が得られるものが良いと思う。場所をどこにするかもあるが、そこに誰がいるかがとても重要だと思う。
- 区はシステムをしっかりと構築してほしい。いろいろな人たちが参加、交流ができるプラットフォームをつくり、そこが機能すると入ってきた情報がフィードバックでき、情報を持ち帰ることもできて情報交換もできる。そのようなラインができればいいと思う。
- 相談するにしてもどこに行ったら良いかわからない人たちを上手に導けるよう、既存のプラットフォームをさらに強化することを考えてはどうか。
- 相談窓口をどうするのか、また目利き機能というのが必要であり、目利きになったところに対して支援をしていくという、大きく3つの段階について整理をしていく必要があるのではないかなと思う。プラットフォームのような集合体については、情報の吸い上げがすごく大事だとは思いますが、目利き機能をもたせないと、多くの支援策に結び付かないのではないかな。
- やる気のある企業側のビジネスの展開に対応した形でやっていかないといけない。ビジネスモデルをどうしていくのか、市場についての情報が欲しいとか、技術が欲しいとか、そういった入口のところでの問題と、さらにそれをブラッシュアップしていく段階、さらにそのブラッシュアップしたビジネスモデルを実現するための資源を必要とする段階と、必要とされるものは大きく分けると3つほど考えられる。その3つに対応した形で、プラットフォームが活用されていかないといけない。
- インターネット上でのバーチャルな機能やシステムといったものと、高田馬場創業支援センターやBIZ新宿など、できる範囲でのハードの部分の活用という、バーチャルとハードを有効に組み合わせしていく仕組みを考えていくことがこれからの課題だと感じる。
- 業種に関係なく支援をしていくのであれば、今まで産業としてあまり意識されてこなかった観光や福祉などの分野を、意識的に広く考え追求していかなければならないだろう。

- ・「何でも相談に乗る課」のような、縦割りではないものを産業振興の視点から突っ込んでみてもいいのではないか。
- ・これから取り組み施策を展開するためには、行政の縦割りの関係を打破し、横の連携をしっかりとさせなければいけないと思う。

4 次回日程について（予定）

○産業振興会議…平成27年3月中旬（会場：B I Z新宿）

○専門部会「新宿らしい産業振興・新しい産業づくり」

＜第3回＞…平成27年1月30日（金）（会場：B I Z新宿・研修室C）

5 閉会